

## 『ニュー・シネマ・パラダイス』

1989年／イタリア・フランス／ジュゼッペ・トルナトーレ監督作品

### 心に残る映画？ 私の場合、 「ニュー・シネマ・パラダイス」だ

会員 佐川 明生 (53期)

この映画を初めて見たのは、大学1年生、18歳の時だった。時代は、昭和から平成に変わったが、ブラウン管テレビに、VHSビデオで見る。そんな時代だ。

評判の良さは耳にしていたが、「映写技師のおじさん（アルフレード）と映画好きの少年（トト）との友情物語」という地味そうな映画であり、正直、あまり期待していなかった。

ところが、である。まず引き込まれたのは、映画館が火事で炎上するシーン。火災に巻き込まれたアルフレード。必死で救おうとするトト。カーチェイスもなければ、宇宙人と戦うこともないこの映画であるが、はらはらドキドキしたものである。

そして何より、ラストシーン。アルフレードの葬儀に参列するため、30年ぶりにシチリア島に戻ったトトに渡されたアルフレードの遺品、それは、アルフレードが文字通り“カット”していたキスシーンを繋ぎ合わせたフィルムだった。シチリア島を出てから、ちょ

い悪オヤジになっていたトトが、微笑とともに涙を浮かべてフィルムに見入る。「あっ」と思うラストシーンだったが、奇を衒ったものではなく、それまでのシーンも伏線という野暮なものではなかった。私自身が、映画に憧れアルフレードと過ごした少年時代、シチリア島を出てから30年間の不良時代を経験したかのような気持ちになり、思わず、微笑を浮かべて、涙を流してしまった。

もう一言付け加えるならば、エンニオ・モリコーネによる音楽も素晴らしい。郷愁感にあふれる旋律、自転車に乗っている時など思わず口ずさんでしまう。今でもCMやテレビ番組で耳にする度に、映画のシーンを思い出す。ちなみに、この音楽は、私の結婚式にも使わせていただいた。

個人的にも思い出が詰まった「ニュー・シネマ・パラダイス」、今度の週末にでも、DVDでも借りて、わが家の液晶テレビで、また見てみようか。



「ニュー・シネマ・パラダイス  
完全オリジナル版  
SPECIAL EDITION」  
発売中  
価格：2,500円（税込）  
発売元：アスミック  
販売元：角川エンタテインメント  
©1989 CristaldiFilm